

ヤングケアラーが担うケアと学校生活の関係  
—大阪府立高校の生徒を対象とした質問紙調査—

○濱島淑恵 (大阪歯科大学), 宮川雅充 (関西学院大学)

### 1. 研究目的

ヤングケアラー(ケアを担う子ども)に関して、イギリスの先行研究<sup>1)</sup>では、学業、友人関係等、学校生活に影響が生じることが指摘されている。また、日本においても、小中学校の教員に対する質問紙調査において、遅刻、欠席、宿題をしない等の問題が生じるケースがあることが指摘されている<sup>2)</sup>。日本での先行調査は、教員の認識にもとづくものを中心であるが、ヤングケアラーの実態を把握するためには、子ども自身の認識にもとづいた調査が必要である。そこで著者らは2016年に大阪府立高校の生徒を対象とした質問紙調査<sup>4)</sup>を実施し、子ども自身の回答にもとづき彼らの担うケアの状況(ケアの相手、内容、頻度等)を示してきた。本報告では、その調査結果から、高校生が担うケアの状況と学校生活に対する主観的評価の関連を分析し、ヤングケアラーが抱える学校生活上の問題について考察する。

### 2. 研究方法

2016年1月～12月に、大阪府立高校(10校)の生徒を対象とした質問紙調査を実施した(有効回答5,246票)。なお、調査は、「関西学院大学人を対象とする行動学系研究倫理委員会」の承認を受け開始した。

ケアの状況については、要ケア家族の有無、回答者自身のケア役割の有無、ケアの頻度・1日あたりの時間の質問に対する結果をもとに、5群に分けた(カテゴリⅠ:要ケア家族はいない/カテゴリⅡ:要ケア家族がいるかどうかわからない/カテゴリⅢa:要ケア家族がいるが自身はケアをしていない/カテゴリⅢb-1:幼いきょうだいがいるという理由のみで自身がケアをしている/カテゴリⅢb-2:要ケア家族がいて自身がケアをしている)。なお、カテゴリⅢb-2については、学校のある日に2時間以上のケアに該当するか否かにもとづき2群に分け、計6群に分けた分析を行った。

学校生活については、最初に、学校生活の楽しさを尋ねた(5件法)。その後、成績への満足、授業の理解、遅刻、欠席、宿題への取り組み、友人関係などについて4件法で尋ねた。

学校生活に関する回答を目的変数、ケアの状況を説明変数とした回帰分析(重回帰分析、順序ロジスティック回帰分析)により、高校生が担うケアと学校生活との関連を分析した。なお、分析は、性別・学年を調整した場合、性別・学年・学校を調整した場合についても行った。

### 3. 研究結果

カテゴリⅢb-2(ヤングケアラーと考えられる群)は272名(5.2%)であった。また、学校のある日に2時間以上のケアを担っている者は61名(1.2%)であった。回帰分析の結果、学校生活の楽しさ、遅刻、欠席、友人関係については、ケアの状況との間に有意な関連が認められた。特に「友人関係」について強い関連が認められ、学校のある日に2時間以上のケアを担う群においてうまくいっていないという回答が多かった。

### 4. 考察

日本における先行の教員調査<sup>2)</sup>においては、ヤングケアラーについて遅刻、欠席、友人関係等の問題が指摘されていた。今回の調査でもそれを支持する結果が得られており、子ども自身の認識にもとづいた場合でも、ヤングケアラーは学校生活(特に友人関係)において問題、困難を抱えている場合があると考えられる。

なお、本報告は、JSPS 科研費 JP17K04256 の助成を受けたものである。

(キーワード:ヤングケアラー, 家族介護, 学校生活)

### 参考文献

- 1) Clay, D., Connors, C., Day, N., and Gkiza, M. with Aldridge, J. (2016) The lives of young carers in England:Qualitative report to DfE, DfE RR499.
- 2) 日本ケアラー連盟 (2015) 南魚沼市ケアを担う子ども(ヤングケアラー)についての調査《教員調査》報告書
- 3) 北山沙和子・石倉健二 (2015) 兵庫教育大学学校教育学研究 27, 25-29
- 4) 濱島淑恵・宮川雅充 (2018) 厚生の指標 65(2), 22-29